

令和2年度 第1回高知県いじめ問題対策連絡協議会
《議事録(概要)》

- 1 日時 令和2年7月21日(火) 15時00分～16時30分
- 2 場所 ザ グラウンパレス新阪急高知 4階 フローラ
- 3 出席者
- | | |
|---------|------------------------|
| 濱 田 省 司 | 高知県知事 |
| 窪 田 泰 行 | 高知県小中学校長会 会長 |
| 藤 中 雄 輔 | 高知県高等学校長協会 会長 |
| 橋 本 和 紀 | 高知県私立中高等学校連合会 会長 |
| 金 子 宜 正 | 高知大学教育学部附属中学校 校長 |
| 仲 村 貴 介 | 高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会 会長 |
| 池 永 彰 美 | 高知県民生委員児童委員協議会連合会 会長 |
| 阿 形 恒 秀 | 国立大学法人鳴門教育大学 教職大学院 教授 |
| 川 竹 佳 子 | 高知弁護士会 |
| 石 黒 成 人 | 高知県医師会 監事 |
| 濱 川 博 子 | 高知県臨床心理士会 副会長 |
| 細 木 忠 憲 | 高知県市町村教育委員会連合会 会長 |
| 菅 谷 和 彦 | 高知地方法務局人権擁護課長 |
| 福 留 利 也 | 高知県地域福祉部長 |
| 岡 村 昭 一 | 高知県文化スポーツ部長 |
| 伊 藤 博 明 | 高知県教育長 |
| 原 田 哲 | 高知県警察本部生活安全部長 |
| 森 克 仁 | 高知県中央児童相談所長 |
| ※ 欠席 | 山本委員 |

4 概要

(1) 開会

会長あいさつ

前回の本協議会以降、大きな問題として新型コロナウイルスの感染対策がある。2月末に総理からの要請があり、長期にわたり小中学校、高等学校、特別支援学校の休校措置が行われた。子どもたちにおいては、不安やストレスを抱えているという報告も受けている。

各学校現場では、新しい生活様式に沿って感染拡大防止、対策をして学校教育活動を行っていただくという段階に入っている。また、保護者や地域の方々、報道機関においても、この感染症拡大という問題にそれぞれの立場で一緒になってあたっていただき、お礼を申し上げたい。今後も協力をお願いします。

本日の会においても、コロナ対策という観点があり、いじめや誹謗中傷、子どもの人権に関わるような問題について、議論いただきたい。

いじめ問題をはじめとする、本県の子どもたちを取り巻く課題の一層の改善に向け、委員の皆様に一層の力添えをお願いしたい。

(2) 議事

令和2年度協議テーマについて

会長

事務局より本年度の協議テーマにつきまして説明をお願いします。

事務局

《資料1に基づき説明》

会長

今年度は、新型コロナウイルスに関する偏見や差別などが、日本全国で問題になっていることもあり、この問題について協議をさせていただくこととなった。

本日、この新型コロナウイルス感染症による偏見・差別等の現状や防止に向けた取組と、昨年度の協議内容を踏まえ、高知県いじめ防止基本方針に基づく主要な取組、各関係機関・団体との連携の在り方の2点について協議をいただく。

まず、新型コロナウイルス感染症による偏見・差別などの現状や防止に向けた取組について、事務局から説明をお願いします。

協議(1) 新型コロナウイルス感染症による偏見・差別等の現状や防止に向けた取組

事務局

《資料2に基づき説明》

今回、新型コロナウイルス感染症による偏見・差別等の問題に対応してきた芸西村村長から、当時の状況等について説明をいただき、その後の対応等、委員の皆様から意見をいただきたい。

芸西村村長

当村では、3月4日に県内で7例目となる新型コロナウイルスに感染した患者が確認された。地域のつながりが強い田舎であることから、情報交換により芸西村と特定されるのは時間の問題だと思った。

感染児童の保護者には、知事による記者発表数分前に、芸西村の児童であることを公表することにご理解をいただいたと連絡が入った。公表しないことによって間違った情報が広がり、いたずらに住民全体を混乱させてはならないというご家族の大変勇気ある重い決断をいただいた。心から敬意を申し上げるものである。

保護者からは学校名の公表を認める前提として、子どもの人権を最後まで守ってもらいたいとの切実な願いがあった。しかし、保護者の願いどおりには進まなかった。

知事の記者会見の1時間後には、マスコミが小学校の正門前に詰め掛けていた。そして、児童の自宅に取材に来たマスコミもあったと後で伺った。この時のご家族の心情は、人間不信と怒りと恐怖の気持ちの中で、身動きの取れない状況だったと思う。

その夜から私の自宅の電話も鳴りやまず、「感染者の住所氏名を言え」といった内容がほとんどであった。翌日からは役場に電話が殺到し、「村長を出せ」、「住所氏名の公表をなぜしない」、「当事者や家族の動線を教えろ」、「1ミリも近づきたくない」、といった内容がほとんどであった。

当然、個人情報であることを伝えると、「どう気を付けろというんだ」、「そんな役立たずな職員は辞めろ」と言って電話を切られた。以後は、「小学校の近くに来ている、嫌だ、やばい、」などのSNSでの拡散があった。そして「芸西の人間とはつながらないほうがいい」、「芸西村産の農作物にはウイルスが付いている」、「芸西の農業はもう終わりだ」、「感染者の親戚で農業をやってる人は、芸西の農業のイメ

ージダウンを防ぐためにも農業をやめるべき」といったデマや噂が蔓延し始めた。

また安芸保健所には、「どこにウイルスがいるか言え」、「外にも出られないじゃないか」といった電話や、「芸西村からの通勤者がいるが、通勤を断らなくていいのか」といった問い合わせなど、一時は日中電話が鳴りっぱなしだった。これは、会社側の独断で通勤を断れないので、通勤させるなどというお墨付きをもらうための電話で、そのようなことはないと言われれば職員が対応すると、「殺すぞ」と言って電話を切られたこともしばしばあったと聞いている。

そして、3月11日に芸西村において民生委員、学校長、法務局、警察署、県教育委員会、保健所等のメンバーを集め、風評被害対策関係者会議を開催した。翌日、「芸西村中傷やめて」という表題で記事にいただいた。

また、村内への周知については、誤った情報に基づいた差別、偏見、いじめがあってはならないこと、そして被害者、加害者は存在しないこと、みんなでお互いを思いやり冷静に行動していただくよう、濱田知事と私のメッセージという形で全戸に配布した。その後は、全国に感染例が広がり、それと同時に同じような誹謗中傷が全国で発生した。

今、村では、表面的には事態は沈静化したかのように見える。しかし、流れ出ていったデマや噂は全くなくなっておらず、現在も広がっている。数日前にも、「感染者の家族が、村内に住めなくなって転出していった」という話が広まっている情報を知り、校長に確認をしたところ、毎日元気に登校しており、友達と校庭で楽しく遊んでいる、という返事をいただいた。

このような間違った情報を媒介するのは人間の口である。人によっては、事実を見てきたかのような口ぶりで話す人もいる。そしてその話は、あたかも事実の話であるかのように、いつまでも伝わっていく。伝えている人には悪気はないかもしれない。しかし、この波紋によって当事者はいつまでも傷付き続けることになる。

本日の会議では、皆様の意見を伺いながら、今後の参考にさせていただきたい。

委員

緊急支援で保護者会に呼ばれたが、100名近くの保護者が出席していた。最初に保健所の所長が正しい知識について説明し、保護者の方たちは、最初は心配そうだったが、次第に落ち着いていった。

その後に、こういうことが起こった時の子どもへの対応についてと、風評被害や噂が流れても絶対に影響されないようにということを伝えた。

保護者会の後で質問を受けた時、同じクラスの子どもの保護者は、検査をしてほしいという意見が多く出ていた。また、保健所の所長には、「仕事を休んでくれ、来てくれるな」と言われたという相談があった。パートの方は「生活に困るので何とかならないか」と相談した方が10名以上いた。

保護者会の結果について聞いてみると、正しい理解や今後の対応を聞いてとても安心したということであった。

学校は、正しい知識を持ち、クラスター対策班から消毒のことなどを教わり安心していましたが、毎日、土日もなく大変であった。健康調査の電話をしたり、消毒をしなければいけなかった。職員会に参加し、質問を出していただいたところ、電話がかかったらどうしたらいいか、何て答えたらいいか、熱心に長時間にわたって確認し、学校が一丸になって対応していただいた。

子どもに関しては、学校が再開される前で、非常に窮屈でストレスが多かったと思われる。子どもたちをどのような状態で学校に登校させるかを先生方と一緒に話し合った。また、退院された子どもが、先生に会いたいということだったので、夕方、担任だけがそっと本人に会いに行き、周りに目立たないように気を付けていた。本当は、昼間に堂々と会いに行きたかったが、いろいろな風評被害が蔓延していることは分かっていたので、つらい状況だった。

子どもたちは学校が再開すると元気いっぱいだったが、大人については、「仕事に行けない」とか、「農産物が売れない」といった話をたくさん聞いた。先生の中にも偏見の被害に遭われた方がいる。緊急支援として心の教育センターからカウンセラーが交替で学校へ行き、電話で保護者からの相談を受けるという状況であった。

村長はじめ、学校、保護者の方々は、一丸となって子どもたちを守ることができていた。それだけに風評被害等、傷付くことが残ったのはとても残念である。いじめというのは、大人がどう生きていくか、大人がどうするかを考える大事なきっかけである。

委員

東日本大震災で被災された方々が、県外でいじめや差別にあったということと重なった。

守られるべき子どもたち、そしてその家族が、差別を受け、何て理不尽なことなんだと思った。自分たちが学校教育の中で目指してきた子ども像というのは何だったのか。こんな時こそ共に支え合える学校づくり、そして地域づくりだったはずと考えさせられた。

学校によって温度差はあるが、学校教育、地域教育の中でそのギャップを埋めていかななくてはいけない。子どもたちが安全、安心を得られる環境づくりのために自分たちは日々考えてきたが、今回の新型コロナウイルス感染症に伴ういじめ等については、本当に憤りを感じる。

校長会としても、最初にいじめを見抜くのは、学校現場の教職員だということを確認し合うべきではないかと考えている。これから学校の役割というのが、これまで以上に問われてくるのではないかと考える。

保護者等のいろいろな意見を、学校はどのように受け入れ、関係機関と協力しながら、どう実践していくのかということ、校長会でも共通理解を図っていかなければいけないと感じた。

芸西村村長

安芸保健所の所長が集会で保護者に説明をした際、保護者からは、「誰なのかとはっきり言ってほしい」という意見が出ていた。身内の方々からは、あまり触れられたくない話題であっただろうと思う。

感染症対策というのは、歴史的にもずっと繰り返されてきたもので、非常に誹謗中傷に結び付きやすい事柄だと思う。今後も議論いただき、参考にさせていただきたい。

(芸西村村長、リモート出席終了)

委員

今回の事案について特徴と対策がそれぞれ4つある。

特徴としては、1番に、感染者を特定して誹謗中傷しようとする。感染防御ができてない危険な人だと考えるような風潮がある。

2番目に、感染を過度に怖がり、感染者を排除しようとする。

3番目に、新型コロナウイルス感染症に対してではなく、感染者と家族に怒りを向け、感染者と家族は二重の被害を受ける。自分の判断が絶対正しいと考えたり、あるいは感染者の苦しみに共感できない、自分のこととして考えられない人が多くなる。

4番目に、非難や差別を発する人の人間の弱さが出るものなので、絶対にこういうことはなくすることはできないということが特徴だと思う。

その対策としては、1番に、正しい知識の普及啓発により、正しく恐れることで非難、差別を減少させられるのではないかとということ。

2番目に、学校や行政の支援、あるいは親しい友人からの言葉がけと態度、共助が大切であるという

こと。

3番目に、非難や差別について、子どもたちが話し合いをする場を持ち、考えさせる。白か黒かではなく、新型コロナウイルスは、分からないことがたくさんあるので、灰色であるということを考えさせること。

4番目に、いじめを受けた児童生徒および家族への支援、あるいはいじめた児童生徒および家族への指導と助言というものが必要であると。この4つの対策が必要である。

委員

ウイルスで苦しんでいる子どもや家族に対して、こういった生活を脅かすようなことがあったことは、非常に残念なことだ。少し立ち止まって、相手の立場になって考え、自分が言われたくないことを言ったらどう思うのかということイメージできてないと思った。高知で最初に感染された方もSNSで噂が拡大して、とんでもない話になった。

PTAとしては、子育ては親育ちということで、研修会や講演会をやっているが、来てほしい方に参加してもらえないといった課題がある。相手の立場に立って考えるということは、社会教育の基本なので、引き続き学んでいく機会をつくっていきたい。

委員

いろいろな地域で活動が自粛されるようになり、私たちも研修会等ができなくなっている。

また、平常時から地域と学校とのつながりができてないといけない。もう少し私たちも学校と普段からの付き合いができるようにしたい。新型コロナの影響で、私たちも卒業式や入学式、いろいろな行事に出席できておらず、また、教員の異動もあり、学校とのつながりができていないのではないかと思います。

地域の行事もいろいろと中止になっていることから、地域のコミュニティーも薄れていくのではないかと思います。心配している。

正しい知識を持って対応することで、子どもたちをフォローしていくことができればよい。学校と平常時から情報を交換していきたい。

委員

徳島県の状況であるが、感染者数は岩手、鳥取に次いで3番目に少ない。だからこそかも分からないが、感染者を避ける感情や差別意識は残念ながら蔓延している気がする。本学の学生も、他県ナンバーの車を所有しており、フロントガラスを割られたという事案も実際に起きている。

その場の方向付けを行う立場の人が、どんなメッセージを出すかというのは非常に大きい。国で言うところの首相や大統領、都道府県や市町村であれば首長、学校であれば校長、担任ということになる。

批判された県もあれば、絶賛された県もある。徳島県は、どちらかという問題があるのではないかと思います。指摘が起きた。県内の施設の駐車場で、他県ナンバーを職員が全部チェックしたことで炎上した。岡山では、高速道路のパーキングエリアで他県ナンバーの車の人を検温するという事で批判があった。

一方で島根県では、島根から関西や首都圏に行ってる人に対し、「早く会いたい、だから今は帰らないでほしい」ということで行き来を自粛することを求めているが、関わりたいというのが根底にあることが絶賛された。そこが炎上したのか、絶賛されたのかの分かれ目のような気がする。

4月当初に、エリザベス女王がイギリス国民に向けて、社会的距離を置くために、愛する人たちと離れる痛みについて丁寧に言葉を紡いで発信した。息苦しさを与えるのではなく、自宅にいて弱い立場の人を助けている。愛する人を失う苦しみが、他の家族に広がらないように協力してるんだという勇気付けるメッセージを出された。女王は最後に「皆さんまたお会いします」と関わらないのではなく、関わろうという締めくくりをした。

学校でも、1986年のいじめによる自殺事案で、担任が、葬式ごっこに加担していたというような事案があった。2006年、福岡の事案でも、担任が率先して、自殺した子をからかうというようなことがあった。これは、子どもを方向付ける立場にある者が、いじめのお墨付きを与えたということである。

また逆の例で、広島から徳島に引っ越して来た子どもで、方言が違っていることから、転校した初日からクスクスと笑いが起きた。その時に担任は、「広島弁格好いな」と話したことで、空気は一転し、他の生徒から「もっと広島弁教えて」となった。このように、方向付ける者の一言がとても大きいと思っている。

会長

やはり大人がしっかりと正しい知識を知って子どもたちに向き合っていくということが、大前提として大事ではないか、そして学校だけでは対応が正直難しいので、地域や関係団体の方々、それぞれの立場でそれぞれの役割で協力をいただきながら対応していくことが大事ではないか。

協議（2）高知県いじめ防止基本方針に基づく主要な取組と各関係機関・団体との連携のあり方

会長

2つ目の協議テーマである高知県いじめ防止基本方針に基づく主要な取組、それから関係機関・団体との連携の在り方に移る。まず、事務局から説明をお願いする。

事務局

《資料3-1、3-2に基づき説明》

（高知県いじめ防止基本方針に基づく各関係機関・団体の取組について各担当から説明）

県教育委員会

《参考資料1-1、1-3、1-6、1-8、1-11に基づき説明》

児童家庭課

《参考資料1-12に基づき説明》

私学・大学支援課

《参考資料1-13に基づき説明》

人権課

《参考資料1-14に基づき説明》

法務局

《参考資料1-15に基づき説明》

県警本部

《参考資料1-16に基づき説明》

会長

各取組の説明を踏まえ、今後さらに必要な取組や関係機関との連携について順次意見をいただきたい。

委員

弁護士会では、いじめも含め、子どもの権利について関係機関、あるいは子どもからも電話の相談を受け付ける事業を実施している。子どもの権利110番というもので、子どもからの電話だけでなく、関係機関、保護者の方からの電話相談は無料で行っている。年間相談になると有料になるが、子ども本人の相談については、法テラスという国の関連機関の援助を利用することができるので、無料で行うことができる。

また、スクールロイヤー事業が今年の6月から始まっている。スクールロイヤーというのは、学校現場で発生するいろいろな問題について、裁判になってから関わるのではなく、保護者の対応や、子ども同士のことでどのようにすべきか、トラブルが予想されそうな段階で、法律に則して話をさせていただく。

その場合も子どもの最善の利益という観点から話をさせていただくので、学校側、保護者側、どちらか偏った話をさせていただくのではない。子どもを守るための法的な相談、あるいは、子ども対象のいじめ防止の授業や、教師対象の研修。また、いじめに関する校内の会合に参加させていただくことも含め、県と弁護士会で協定を結んだ。私立学校については、直接、別のルートで弁護士会等に連絡していただけたら、案内が可能かと思う。トラブルが起きてからではなく、事前の段階でも相談等受け付けている。

委員

新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者、それから医療従事者等に対する根拠のない言動、嫌がらせ、もしくはこれに伴う人権問題については、法務省、法務局としては、誤解・偏見に基づく差別は許されないという見解を表明するとともに、公的機関が提供する正確な情報を入手し、冷静に行動いただくようメッセージを発信し、啓発周知をしているところである。

具体的な取組としては、SOSミニレターや、新型コロナウイルスに感染した人への差別やいじめについての課題の周知を重点的に行っている。人権相談として受け付ける、もしくは調査救済も進めているところである。

この人権相談等の取組に関しては、ほかの人権相談と同様に、みんなの人権110番であったり、フリーダイヤルの子どもの人権110番であったり、女性の人権ホットライン、外国人人権ダイヤル、そういった形で受け付けをしているところである。

広報に関しては、4・5月に法務局のホームページに掲載したり、高知県人権擁護委員連合会のホームページに掲載したり、法務局内の合同庁舎にポスター掲示をしたり、広く周知啓発をしている。

また5月には、県内のテレビ局にもお願いし、新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別は許されないという形の放送告知をしていただいた。また、いくつかの市町村の広報誌にも掲載していただいている。

本省のホームページにおいては、法務大臣が緊急ビデオメッセージという形で掲載をして広報をしている。このビデオメッセージについても、市町村の広報誌であったり、法務局のホームページから案内している。

委員

各市町村教育委員会では、いじめ防止基本方針に基づき、学校と連携しながら取組を進めている。課

題となるのは、知識と人材の確保であると考えてる。

「高知家」いじめ予防等プログラムを活用しながら、県職員はもちろん、地域や保護者、さらには中学生との研修、学習等を実施したい。

スクールロイヤー制度についてもできるだけ活用する方向で検討しているところである。トラブルが起きたときのアドバイスも重要であるが、予防のための研修等にも協力いただけるということで、できれば枠を拡大していただけたらありがたい。

また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの人材確保ならびに配置の拡大についてもお願いしたい。

委員

私立学校では、学校でいじめ重大事案が発生し、学校だけでは対応が厳しい場合のために、県がサポート専門家チームを設けている。この事業が存在するということが安心感につながる。

また、不登校の問題等も含め、スクールカウンセラーの雇用についても財政支援をいただいている。

それから、新型コロナウイルス感染症の問題について、県と学校の連携ということ考えた時、生徒の生活圏が広いので、連携の仕方ということも改めて確認をし、備えていかないといけない。

委員

SNSについては、匿名性があり、また、無責任な言動もあつたりすることが問題視されている。別の世界と現実の世界でねじれてつながっており、難しい状況にある。

こういったことを実際に子どもたちと近くで話をしたりしたいが、コロナの影響で近付いてはいけないため、関係が切れてしまっている。オンラインでの活動が行われているが、確かに話はできるとしても、何か身近な事柄として捉えにくい、非常に難しい状況下にある。

いじめや差別などの問題について、ストレス発散とか無責任なことを平気でしてしまうようなものを常に持っているということになると、それを打開していくにはどうしたらいいか。ゆとりがなく、心の広さというものが欠落して、そこにひずみが出てくるのではないかと考える。

委員

大人の問題も大きいと思う。大人が変わらないと、子どもにも影響をもたらすことができない。大人に対しての教育、生涯学習をやっていく必要があると思う。性善説のように年がいくたびに悪くなっていくのだとしたら、やはりずっと生涯学習をしていかないといけないと感じる。

委員

今後、いろいろなところに子どもや大人が出かけて行って、夏休みが明けると、また新型コロナの感染者が増える可能性がある。県から偏見・差別というのは、本当に人を傷付けるんだということをしつかり発信していただきたい。大人がどう捉えるかということがとても大事かと思う。

会長

様々な取組を進めていただいているが、だんだん繰り返していくと形式的になってしまったりというようなことがある。ぜひ実効性があるように取り組んでいただきたい。

協議（３）その他

会長

協議（３）のその他について事務局から説明を願います。

事務局

《参考資料２に基づき説明》

会長

本日協議をさせていただいた中身を踏まえていただき、それぞれの機関・団体において、それぞれの取組に反映し、協力いただけるようお願いする。

事務局

今回は、１月２８日（木）を予定している。今回の協議を踏まえ、いじめ防止等の主要な取組について令和２年度の成果や課題について協議をいただく予定である。